

東風見聞録

平成20年5月発行 通巻26号
イーストウインド・プロダクション 田中正人・竹内靖恵
群馬県利根郡みなかみ町鹿野沢六三七 M 三〇二

東京都山岳連盟主催 日本山岳耐久レース安全走行講習会

4月26日(土)東京都山岳連盟主催で安全走行講習会が開催された。これは空前のトレイルランニングブームと、昨年の日本山岳耐久レースでの事故により、山中での活動に安全性が求められていることから、日本山岳耐久レースを主催する東京都山岳連盟が企画・運営したものだ。この主任講師に田中正人が抜擢された。

第一回のこの日は、トレイルランニングの特性、自然の中での活動における自己責任、走行法、自然についての講義、現在地の確認(特に途中で下山をする時に必要となる)などを実際に山の中にて講義した。



田中陽希 チームイーストウインド 正式メンバーになる

平成20年4月1日付けで、田中陽希がチームイーストウインドの正式メンバーとなった。

昨年3月に群馬県みなかみ町に来て当チームのトレイルラン生として頑張ってきた。やがて仲間が脱落していくなか、悩みながらも懸命にトレーニングに打ち込み、ラフティングやシーカヤックの上達、オリエンテーリングのスキルアップなどに集中。

徐々にその頭角を現すがごとく、マウンテンバイクラリーでは連勝を果たすなど、田中正人を驚かせる実力を見せ付けた。そして3月でトレーニング生を卒業し、4月からは新メンバーとなりながら、早速ジャパンスリースの三浦横須賀大会を成功に導いた。

チームイーストウインドを応援してくださる皆様、これから新メンバーとなりました田中陽希をどうぞよろしくお願い致します。

馬耳東風

ようやく動かし始めた日本アドベンチャーレース協会の初事業は、初中級向けの国内レース「アドベンチャーレーシング・ジャパンシリーズ」だ。4月、5月と2大会を実施し6月に最終戦を予定している。1月から諸関係者に当たり始め、たった3ヶ月ほどで大会実施を実現できたことは驚きとともに関係者に敬意を表したい。ここで分かった事は、人は待つていてくれるということである。私が動き出すのを待つてくれる人が多いということを実感した。つい先日、もう1大会増やすことが決まった。来年は5大会は実現したい。最近トレイルランニング(山岳マラソン)が大ブームだ。今年入って4冊も新本が発行され、来月もう1冊発行が予定されている。私もコラムを書いたり、ハウツーペーJを担当した。そして、とうとう1冊のトレラン本を執筆することになった。しかも2ヶ月ほどで仕上げなければならぬ予定だ。またまた尻に火がつく日々が予想されるが、時流に乗ることも大切だと感じる昨今である。

トレーニング生 里見洋一の離脱

今年トレーニング生になった里見洋一が離脱する事となった。理由は「アドベンチャーレーサーになる腹がくくれていなかったため」。

チームイーストウインドは海外レース出場がメインになる。基本的な体力も異なる外国人勢と互角に戦うには厳しいトレーニングに打ち勝つしかない。それにはかなりの時間と労力を費やす事となる。「やってみようかな」という生半可な気持ちで始めてみると、途中でできなくなってくる。「絶対に海外レースの舞台に立つんだ!」という意気込みが最も重要だ。

今後、里見は得意分野のトレイルランに打ち込んで行く。トレイルランの世界では、また良きライバルの出現だ。どこかの会場で彼を見かけたら、どうか温かい声を掛けてやってほしい。

とれとれはいくオプシディアン

5月2日、5日、とれとれはいく(マウンテンバイクラリー)の最終戦レイド・オプシディアンが開催された。この大会は4日間のステージレースで、1日ごとの結果が加算されて勝者が決まる。

今年のオプシディアン開催地は東京都。1日目は東京都心で、2日目から大島に渡った。

イーストウインドからは、前回のオプシディアンで優勝した田中正人、最近とれとれはいく戦で好成績を出す田中陽希、トレーニング生(当時)の里見洋一が参戦。正人と陽希が抜きつ抜かれつの熾烈な戦いとなる。結果、15秒差で師匠(正人)を抜いて陽希が優勝を飾った。



アドベンチャーレーシング・ジャパンシリーズ 開幕!

アドベンチャーレーシング・ジャパンシリーズが開幕した。これは田中正人が会長を務める日本アドベンチャーレース協会主催で、運営には各開催地のアウトドアのプロ達が地元の大自然を満喫できるコースを設定。



第1戦は4月29日(祝)岐阜県郡上市の長良川にて開催。地元でラフティングツアーを運営するアウトドアサポートシステムと伊豆アドベンチャーで優勝をした高梨雅幸氏がタッグを組み、マウンテンバイク、スコアオリエンテーリング、ラフティング、リパークロッシングなど、魅惑的なコースを設定。15チームが参戦した。

第2戦は5月17日(土)三浦市・横須賀市にて開催。コースディレクターは今年4月にイーストウインドの正式メンバーとなった田中陽希が担当。陽希はコース設定だけではなく、地元交渉、メディア活動など、多岐に渡って今回のレースを作った。種目は岐阜と同様のマウンテンバイク、スコアオリエンテーリングと、三浦海岸でのシーカヤック。これには16チームが参戦した。

そして最終戦は6月29日、富士山周辺にて開催。現在参加チームとボランティアスタッフを募集している。

<http://www.adventurerace.jp/2008/fuji/index.html>



このシリーズでは、年度ごとの出場大会の合計ポイントでシリーズ年間総合ランキングを決定し、ランキング1位は里山アドベンチャーに招待される。

日本アドベンチャーレース協会は、今後更にシリーズ戦を増やし、全国でアドベンチャーレースが開催される事を目標としている。

またシリーズ戦には万が一に備えて北里大学病院の看護師達が脇で控える。しかしアウトドアの達人や看護師が控えると言っても、自然を相手にレースに挑むのは選手たちである。選手は最低限のアウトドアスポーツのスキルと自己の危機管理が必要となる。これからシリーズ戦に出場を考えているチームは「何かあったら主催者が助けてくれるだろう」という前提は捨て、自分たちで自然に対応できる力をも身につけて欲しい。アドベンチャーレースはただのレースではなく、自然と対峙する競技なのだ。



三浦横須賀大会の様子は次号の『タカタタ』と『フィールドライフ夏号』(エイ出版社)にて掲載される予定!